

Abflug2010

- あさくさばしから声がする -

2010.3.5(FRI) - 3.16(TUE)

滝川 おりえ - Orié TAKIGAWA -

田中 さえ - Sae TANAKA -

塚本 和世 - Kazuyo TSUKAMOTO -

萩原 麻実 - Mami HAGIWARA -

▶ギャラリートーク&パーティー

3.12 (fri) 17:00 -

ゲスト：鷹見明彦(美術評論家)



萩原 麻実

A型

1986年 千葉県生まれ
 2006年 東京造形大学絵画専攻入学
 2007年 二人展「Neo Dolly」(ギャラリーきらり)
 2009年 「Hand's do展」(文房堂ギャラリー)
 2010年 東京造形大学卒業予定



田中 さえ

B型

1988年 東京都生まれ
 2006年 東京造形大学絵画専攻入学
 2010年 東京造形大学卒業予定



滝川 おりえ

AB型

1984年 兵庫県生まれ
 2006年 東京造形大学絵画専攻入学
 2010年 東京造形大学卒業予定

<受賞歴>
 2010年 ZOKEI展(卒業制作展) ZOKEI賞



塚本 和世

O型

1985年 埼玉県生まれ
 2006年 東京造形大学絵画専攻入学
 2008年 「第四回安行百花展」(GREEN ART TEAM)
 二人展「そこにいる」(ギャラリーーツプラス)
 「見沼の見!2008」(GREEN ART TEAM)
 2009年 「第五回安行百花展」(GREEN ART TEAM)
 「見沼の見!2009」(GREEN ART TEAM)
 2010年 東京造形大学卒業予定

「Abflug2010 —あさくさばしから声がする—」によせて

本展タイトルAbflugはドイツ語、離陸を意味する。今展は文字どおりこの春卒業をひかえる東京造形大学母袋ゼミの有志4人による展覧会である。

滝川おりえは<表面/裏面 斜>をキーワードに背後感を覚醒するメタ絵画をインスタレーションによって、田中さえは<自分と他者>の関係をナラティブな絵画世界を複数作品により紡ぎ、塚本和世は不可視ではあるが確かにある筈の<別の場所>をフラジイルなインスタレーションによって、萩原麻実は手芸手法の援用によって<触れる>ことをへて交感するモルフォロギア実現を、それぞれが追究してきた。それは、共有した時間と場の中で互いに刺激しあい学習と研究と研鑽をつみ育まれていった。

そして、これからはその共有の場を離れ、それぞれが固有の時間と場とテーマを生きていくことになる。

副題には彼女らによって「あさくさばしから声がする」が付加されている。

今回その研究学習の成果は、共有した場から一步外に、あさくさばし マキイマサルファインアーツに運び出されることになる。異なる場を得て作品はどのように発語するのだろうか。

そこで聞こえる声がさらなる外にむけて次第に確かさを深め、大きくなっていくことを強く期待する。

2010, 2月 母袋俊也 東京造形大学教授



「FARM」 2010年 絵画インスタレーション(材木、麻布、アクリリック) 265×300×300cm

(ディテールアップ)



滝川 おりえ -Oriie TAKIGAWA-

裏側からにじみ出る
“見えない存在者”

～壁面へと向かい始めた地に落ちた絵画へ～

見えているものと、見えていないものは、
《表と裏》の関係であるかのように思える。
見えている部分は
見えていない何者かの残した痕跡であるかもしれない。
表と裏の狭間にある錯綜した緊張感。
それはいまここに、そこかしこにあり続ける。

“見えない存在者”からの開始の連続を想う。





「どこかで歌うあなたへ」 2009-2010年 キャンバスに油彩 194×162cm

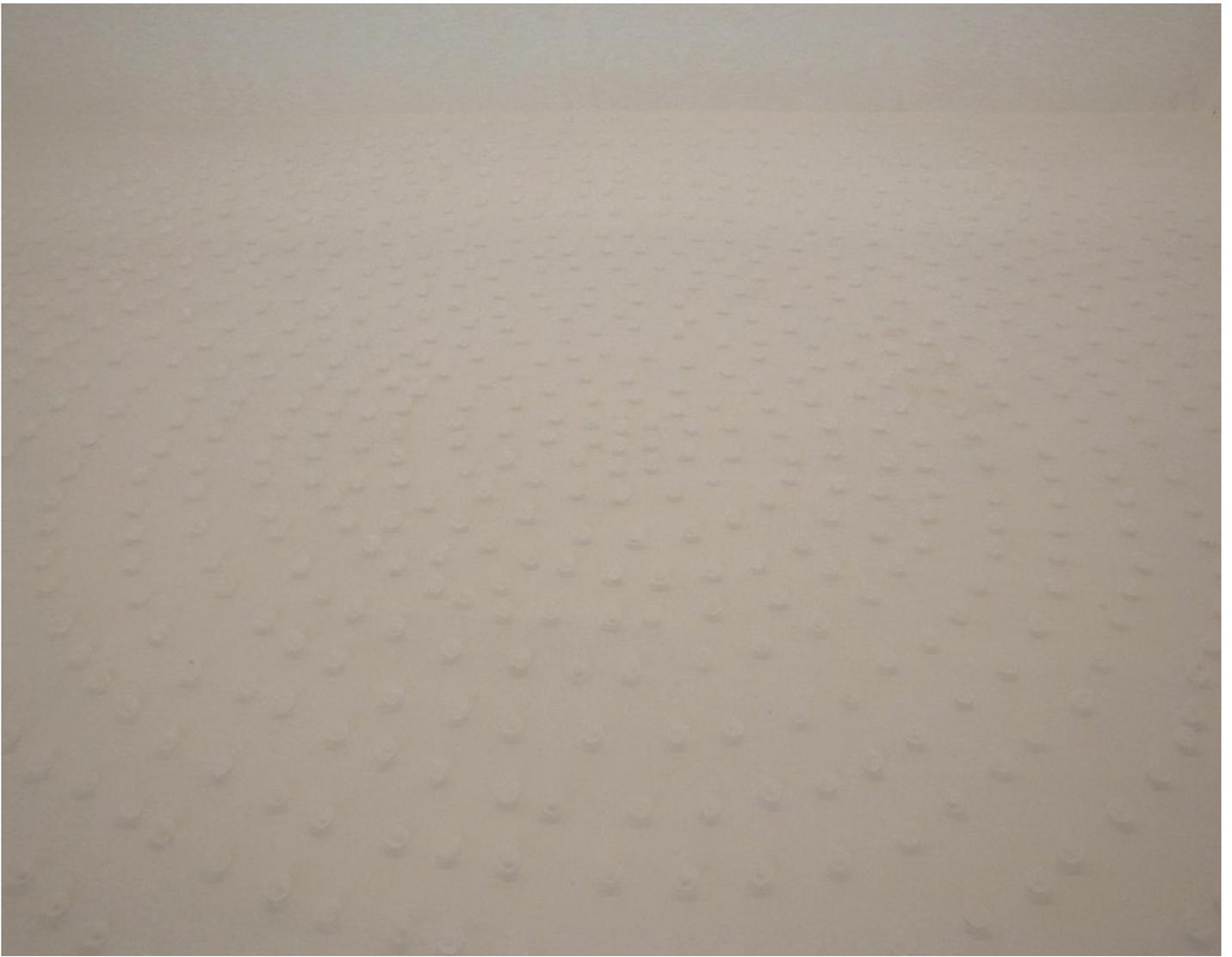
田中 さえ -Sae TANAKA-



自分と他者との
関係性を
生む。



個々の作品は、やがて一つの物語へと紡がれていきます。
描かれているモチーフ・場面が、他者の人生とリンクして、作品に内面的価値が生まれる。
様々な想いの存在を確かめながら制作しています。



「どこかのために」 2010年 インスタレーション (綿、オーガンジー、塵) 450×450×270cm (可変)

塚本 和世 -Kazuyo TSUKAMOTO-



知らない場所で起こっていること。

そこに存在する物や時間。

知ることは出来なくとも在る全てのもの。

いつでもそれらの気配を感じていたいと思います。





「NEKKOごっこ - <見立て>あそび」 2009-2010年 立体インスタレーション (布、クッション材 / ポリエステル綿、コットン綿、発泡ビーズなど) 300×300×100cm (可変)

萩原 麻実 -Mami HAGIWARA-



<見立て>の行為をテーマに日々制作。

ふと歌を口ずさんでいる時、寝ころがっていたり、散歩や買い物、おいしいものを食べている時にハッと見つける、意外と壮大な自然の理とのリンクするところ。

その共通点を軸にちょっと姿かたちを換えてみる。

そんな<見立て>というフィクション「ごっこあそび」を通して、“人は自然の理に沿って生きている” なにか心地良さを感じてもらえたら、とあれこれ模索しています。

